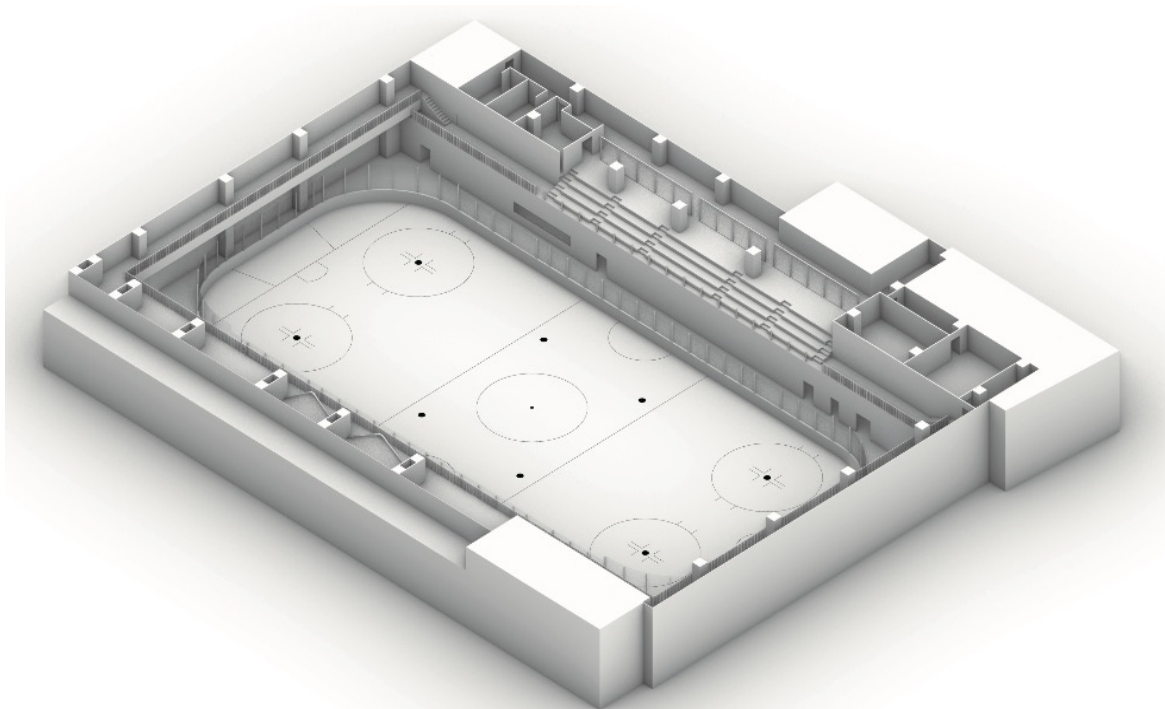


新アイススケート場の コンセプトと可能性



- 1.経緯：なぜスケートリンクなのか
2. 目指すコンセプト
3. スケートリンクを取り巻く現状
4. 新スケートリンクでの利用想定
- 5.収支計画（概要）
6. 「まちなか」ならではの可能性

株式会社 iマネジメント

2025年（令和7年）7月7日

1. 経緯：なぜスケートリンクなのか

◇再開発には、国・県・市の補助金が必須

◇補助金の採択を受けるためには、「地域貢献する施設」が必要

◇中心市街地には無く、「地域貢献」可能なものを模索

→ 可能性としてアイススケート場が浮上し面積としては実現可能と判明

◇実現性や収益性・継続性を検討するために、「エコリンク」を企画・運営してきた岡崎と中村に打診

◇岡崎・中村で収支計画を概算し、運営は黒字化できる可能性を確認

◇アイススケート場の資産をディベロッパー等が保有することを前提に、スケート関係者が賃借で運営する方針が準備組合より打診される

◇運営会社が必要という認識のもと、「株式会社iマネジメント」を設立

- ・社長に田中洋一郎が就任

- ・岡崎、中村は取締役として計画実務を担当

◇その後、再開発組合より賃貸から所有に変更の依頼があり、(株)iマネジメントが所有し経営する計画に変更となった



株式会社 i マネジメント 概要

「i」には、

- ・ ice 氷
- ・ improve 進歩させる、発展する
- ・ interest 面白いこと
- ・ inter 間、相互=いろいろなものをつなぐ

といった意味を込めて、これらからiceのある空間を利用して、多様に発展するものとして小文字を使った。

創 立 2018年（平成30年）12月3日

資本金額 3億4,510万円 2025年（令和7年）7月現在

役員構

- ◇ 代表取締役：田 中 洋一郎
- ◇ 取 締 役：岡 崎 達 也
- ◇ 取 締 役：中 村 慎 一
- ◇ 監 査 役：若 林 啓 介

田中洋一郎

ダイチ(株)代表取締役
スピードスケート選手を社員として雇用してオリンピックメダリストも輩出。現在は、富山県出身、スキージャンプ複合で平昌オリンピック出場した山元豪も社員としてサポートしている。

岡崎達也

ヒルトップワールドワイド(株)代表取締役
仙台生まれ、早稲田大学アイスホッケー部出身、もと富山県国体選手。スケート界の幅広い人脈で情報収集と営業活動を担当。全国各地のスケートリンク設営・運営にも携わり、設備管理や運営ノウハウを蓄積している。

中村慎一

オフィスエンカレッジ代表
富山県生まれ、新潟大学アイスホッケー部出身、もと富山県国体選手。ビジネスコーチの経験から、マーケティングと運営管理を担当。エコリンクの現場運営と管理を続けながら、富山の現状にあったプランを検討している。

若林啓介

紙ぶらす(株)代表取締役
中央通りD北地区市街地再開発組合理事長

2. 目指すコンセプト

- 多様な人々が 「集い」 「遊び」 「学ぶ」
- 地域社会のハブとなるコミュニティスペース
- としてのスケートリンクにします。



集い

家族、友人、恋人、富山市民、富山市以外の市民、日本人、外国人、健常者、障がい者、お年寄り、子ども、青年、男性、女性、と何の枠組みもなく、誰もが自由に集えるコミュニティ空間の実現

遊び

既存のアイススポーツだけでなく、新しい氷上での遊びをも、みんなで創造し、身体を動かし、いつでも健康的に遊べ、さまざまな可能性にチャレンジすることの喜びと笑顔を生み出すコミュニティ空間の実現

学ぶ

多様な人々が集う中での「出逢い」を通して、礼節、思いやり、愛情、謙譲の心、チャレンジ精神、ボランティア精神などの「人間学」を、みんなで自然に学べる共育空間の実現

利便性の良い富山市中心部において、
天候に左右されない空間で、
気軽に楽しく健康的に時間を過ごすことができる
「コミュニティ空間」を創造することで、
地域コミュニティの発展を促します。

むかし、街には広場がありました。
そこには小さな子どもから中高生までが集って一緒に遊んでおり、その遊びを通して他者との関わりを学んでいました。それを周囲で見守る大人から可愛がられ、いけないことを諭され時には叱られることもあったでしょう。

そうして地域のつながりと人の成長が促されていたのです。

しかし、現代は属性によって居場所が特定されたことで分断され、ゆるい交わりや重なりが失われているように思えます。



私達が目指すのは、

過去に街にあった広場のような場所、

**「多様な人々が集い・遊び・学べる 地域社会のハブとなる
コミュニティースペースの創出」** をキーワードに、

- ・ 競技者のみならず、小さなお子様から高齢者の方々に
至るまで、誰でも楽しむことができ、
- ・ 適度な全身運動による健康増進効果や、
- ・ 未就学児から小中高校生や大学生、さらには保護者の皆
様やシニア層と、

世代の垣根を越えた、ふれあいや教育の場、あるいは
新たな文化交流の場の創出です。

また、こうしたアイススケートを通じての地域活動は、コンパクトシティの具現化という観点からも大切なことであり、中心市街地の活性化にも寄与するものと考えています。

3. スケートリンクを取り巻く現状

(1) スケートリンクの数	1985年	1996年	2018年	増減率
総数	940	450	216	48%
うち通年営業のリンク数		不明	29	

ピーク時より半減している

※文部科学省「体育・スポーツ施設調査」「社会教育調査」ならびに日本スケート連盟HP「全国のスケートリンク」より集計
※1985年頃はバブル期でイベントリンクが急増したが継続しなかったため、それが落ち着いた1996年をピーク時とした

(2) 競技人口	1994年	2020年	増減率
スケート（スピード・フィギュア）	10,699	9,702	91%
うちフィギュア少年(18歳未満)	1,795	3,279	183%

フィギュア少年の競技人口は増加している

※日本スケート連盟資料より集計

	1995年	2020年	増減率
アイスホッケー選手登録	27,375	16,047	59%
チーム登録	1,123	745	66%
うち大学チーム	143	118	83%

大学チーム数の減少率は小さい

※日本アイスホッケー連盟資料より集計

	1995年	2020年	増減率
スケート+ホッケー登録数	38,074	25,749	68%
フィギュア少年+大学チーム	1,938	3,397	175%

利用頻度の高い若年競技者がリンク不足で困っている

特に通年リンクが不足している

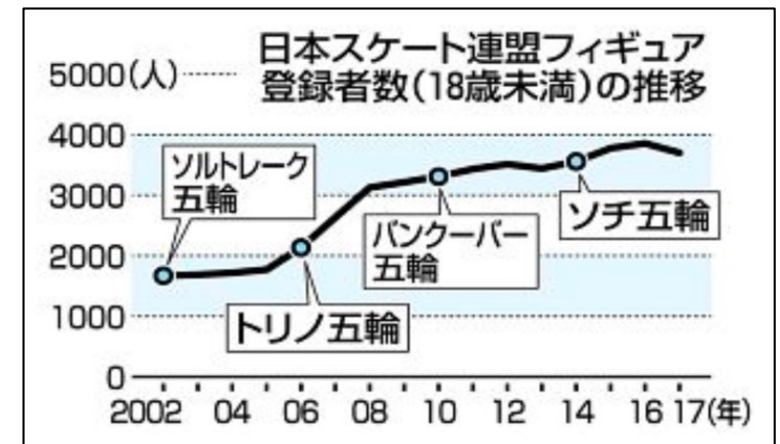
→リンクができれば競技者が集まり育つ（新潟の実例）

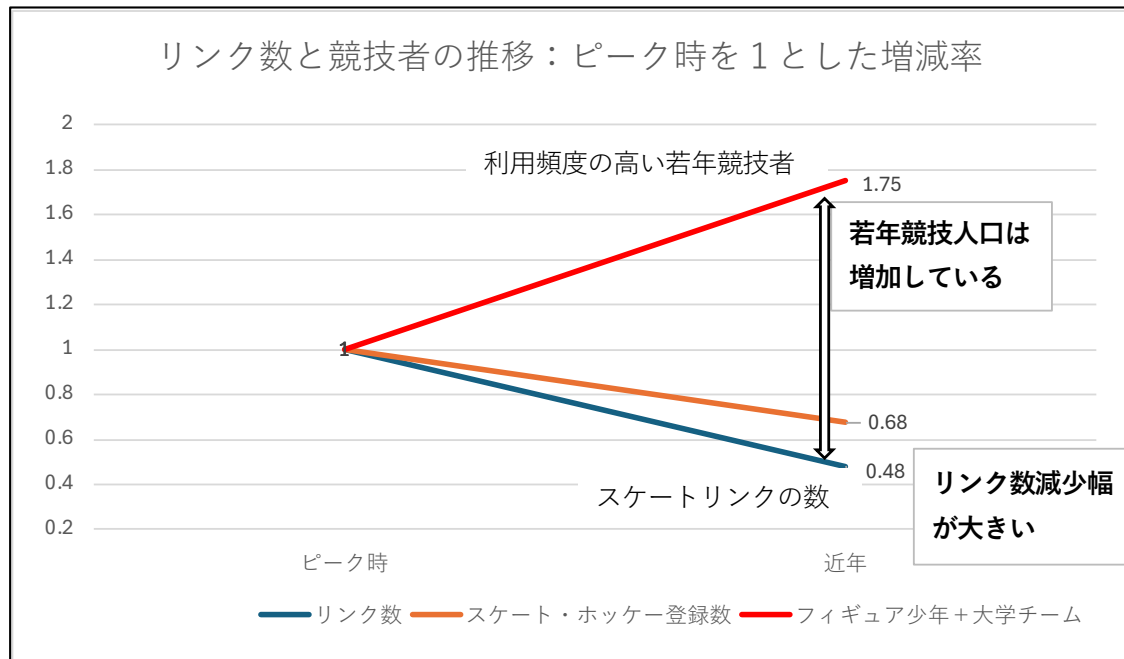
→県外（関東／関西）からの夏合宿需要を取り込める

ホッケーオールドタイマー参加者も増加している

1996年より50歳以上の大会を毎年開催

2013年より60歳以上、2017年より70歳以上カテゴリーが追加





利用頻度の高い「若年競技人口」が増加しているのに対し、リンク数減少幅が大きくて、練習場所が圧倒的に不足している

(3) 富山県周辺の状況

日本海側に通年リンクが新潟市にしかない

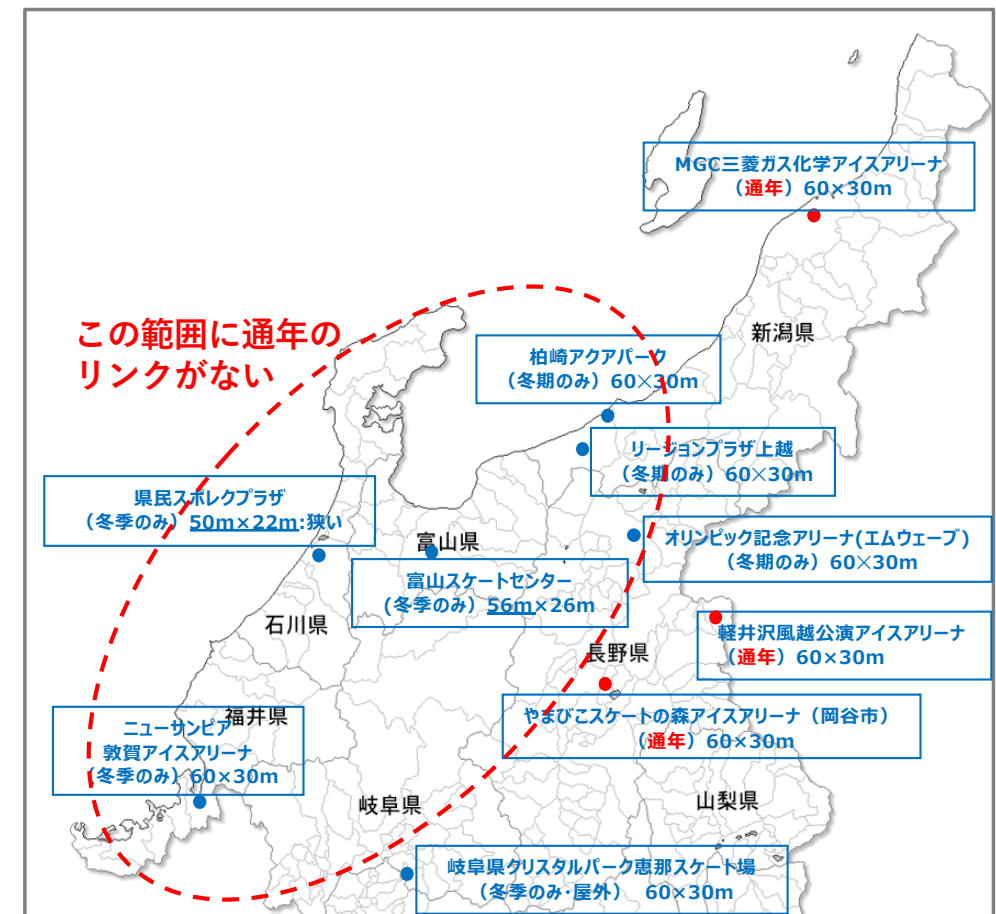
富山市の既存リンクはサイズが小さく、老朽化も進んでいる

金沢市のリンクは、非公認サイズで狭く、公式戦などができない



富山市に通年リンクを設けることで、富山・石川・上越地域の競技者からの通年利用が見込まれる。

富山を取り巻くスケートリンクの現状



< 参考 1 > スケートリンク不足の現状

旧来の新潟市内のリンクが閉鎖となり
競技者が減少していたが、新リンクが
開業したことで選手が増加した。

朝日新聞DIGITAL 2018/2/13



希望者に対して、リンクの数が不足し
ている実態

THE ANSWER 2020/9/26



<参考2> 各地の利用状況

「上越リージョンプラザ」 第15回 上越オールドタイマー・アイスホッケーフェスティバル

2024年5月18日(土)、19日(日) 参加6チーム 登録109名 他にも参加希望チームがあるが順番待ちとなっている



50歳以上カテゴリー

石川・富山・岐阜合同 チームと 長野県選抜チーム



60歳以上カテゴリーの参加者

最高齢は80歳女性



レセプション 103名が参加

オールドタイマー参加者は、ほとんどがレセプションに参加し、大会前後に観光する人も多い(中には家族連れの方も)

「江戸川区スポーツランド」



2024年5月31日(金)17時頃の一般営業

平日夕方50名ほどが利用

中心部は区画分けしてフィギュアの練習

「横浜銀行アイスアリーナ」



2024年6月1日(土)11時頃 貸切

オールドタイマーチームの練習

この日は休日だが、1日中貸切が詰まっていた

「KOSÉ新横浜スケートセンター」



2024年6月1日(土)13時頃の一般営業

区画分けしてスケート教室も開催

冬季のメインシーズン休日には1,000名を超えて芋洗い状態になるとのこと

4. 新スケートリンクでの利用想定

商圈規模が近い地方都市で、競合距離内に通年営業リンクが無く、東京駅から新幹線で2時間圏に立地する、

- ・盛岡市アイスリンク
- ・MGC三菱ガス化学 アイスアリーナ（新潟市）

をモデルとして比較研究し、より富山に近い条件で運営データ詳細を入手できた新潟をモデルとして、新リンクの売上試算を行った。

リンクからの距離別居住人口を比較すると、半径6km内(徒歩や自転車移動の範囲)居住人口は富山市のほうが多い



黒線は半径3km、赤線は半径6kmを示す

ここに大きなポテンシャル

	新潟市	富山市 (道内市町村を含む)	対新潟比
6km	65,587	225,659	344%
12km	392,609	392,411	100%
18km	676,208	453,460	67%
24km	819,468	747,161	91%
30km	919,165	835,465	91%

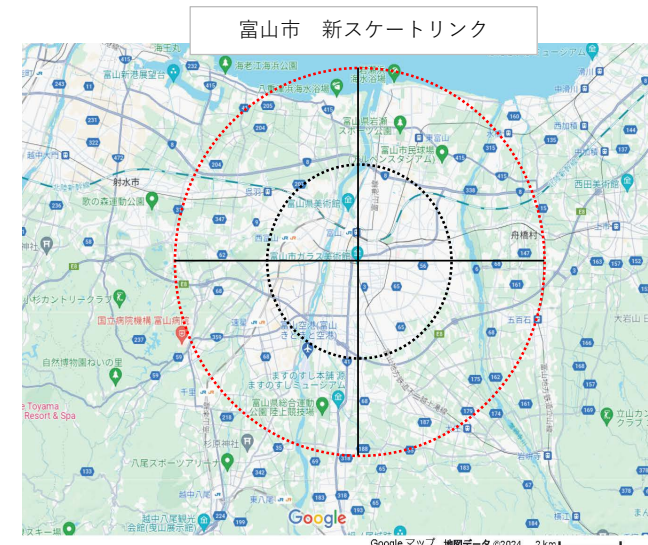
当地区における推計年間利用客数 (人)

一般利用	86,000
定期券利用	13,200
教室利用	3,800
団体利用	8,300
貸切利用	7,500
付添、見学、会議室利用など	13,200
総計	132,000

(新潟開業3シーズン目の年間利用客数：136,000人)

一般利用の平日／休日別想定 (人)

	平日	休日
オンシーズン	40～60	630～780
オフシーズン	10～40	410～630



黒線は半径3km、赤線は半径6kmを示す

5. 収支計画（概要）

前ページの考え方を基に、一般利用数は新潟の実数を基準に設定

貸切は、現在の富山県内利用者の実態調査ならびに近隣各県の利用意向調査や、関東関西の合宿利用希望をヒアリングした結果を反映

他の各種試算基準は、各地のスケートリンク実態調査から現実的な値を想定した

■ 基準年度の収入試算

項目	数量 単位	年額(円)	備考
スケートリンク関係売上		216,995,000	
① 一般利用	86,000 人	126,420,000	大人21,500人/学生12,900人/小学以下51,600人
② 入場のみ	10,320 人	3,096,000	小学生以下×0.2
③ 定期券利用者	254 人	13,504,000	競技関係者、愛好者の利用
④ 教室利用	3,840 人	8,460,000	リンク主催のスケート教室など
⑤ 団体利用	8,320 人	6,656,000	小学校、各種団体等
⑥ 貸切利用	1,371 枠	53,880,000	競技者の貸切利用(最大可能枠2,964)
⑦ 付帯設備等	1 式	4,979,000	補助具貸出、コインロッカーなど
付帯施設その他売上		13,807,000	
⑪ 雑収入	1 式	4,000,000	自販機、リベア対応など
⑫ イベント貸出	7 件	3,575,000	競技大会等リンク全面の貸出
⑬ その他収入	1 式	6,232,000	会議室貸出、ブース出店、高齢者・小学生のバス券等
営業収入		230,802,000	

■ 基準年度の支出試算

項目	数量 単位	年額(円)	備考
人件費		35,280,000	
常勤人件費	4 名	20,280,000	
非常勤人件費	7,882 時間	10,416,750	パート、アルバイト
間接人件費		4,583,250	交通費、諸保険料、福利厚生費他
施設および設備維持費		16,080,000	
製氷システム保守費等	12 ヶ月	2,280,000	
空調設備等点検・保守	12 ヶ月	360,000	
諸機器保守、リース等	12 ヶ月	2,760,000	
エレベーター保守他	12 ヶ月	3,840,000	
施設維持費等	12 ヶ月	4,020,000	定期清掃、警備、廃棄物処理等
一般事務費	12 ヶ月	1,440,000	事務用品、会議費など
その他経費	12 ヶ月	1,380,000	
光熱水費		24,480,000	
ガス料金	4,400 m3/年	836,000	
水道料金	8,700 m3/年	4,872,000	
電気料金	660,000 kwh/年	18,772,000	
リース料金		19,200,000	ZEB事業対象
経常経費		95,040,000	

年間営業利益 135,762,000

- ・15年で建設費の長期融資返済予定
- ・概ね4年毎の定期保守・修繕・更新、30年後の大型改修に向けて積み立て

■ 最大稼働時の週間時間割予定表(24時間稼働可能)

※貸切A/B/C は、利用頻度の高い順で貸切料金に違いを設ける予定

平日	貸切C		貸切C		貸切B		一般滑走／教室開催(12:00～18:00)						貸切A		貸切A		貸切B		貸切C		貸切C		貸切C			
金曜	貸切C		貸切C		貸切B		一般滑走／教室開催(12:00～19:00)						貸切A		貸切A		貸切B		貸切C		貸切C		貸切C			
土曜	貸切B		貸切A		一般滑走／教室開催(10:00～19:00)						貸切A		貸切A		貸切B		貸切C		貸切C		貸切C					
日曜	貸切B		貸切A		一般滑走／教室開催(10:00～19:00)						貸切A		貸切A		貸切C											
時間帯	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00		

6. 「まちなか」ならではの可能性

<目指す方向>

<各地の現状>

積極的な利用拡大への取り組みはあまりなされておらず、利用者は、レジャーとしての一般利用と競技利用とに分離している。

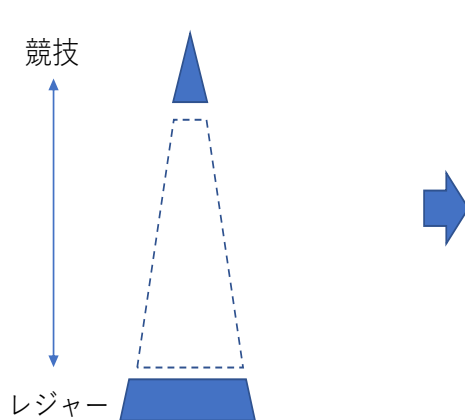
多様な利用方法の提案で一般利用の底辺拡大を図るとともに、そうした一般利用者を「スケート愛好者」に育てることでリピート利用を拡大する。

また、競技者もトップレベルを目指すばかりでなく、楽しむスポーツとして継続できるチームやプログラムをサポートすることで、定期利用者の安定を図る。

スケート場利用者が地域へ回遊するような案内やきっかけ作りをして、地域活性化に貢献することも目指す。

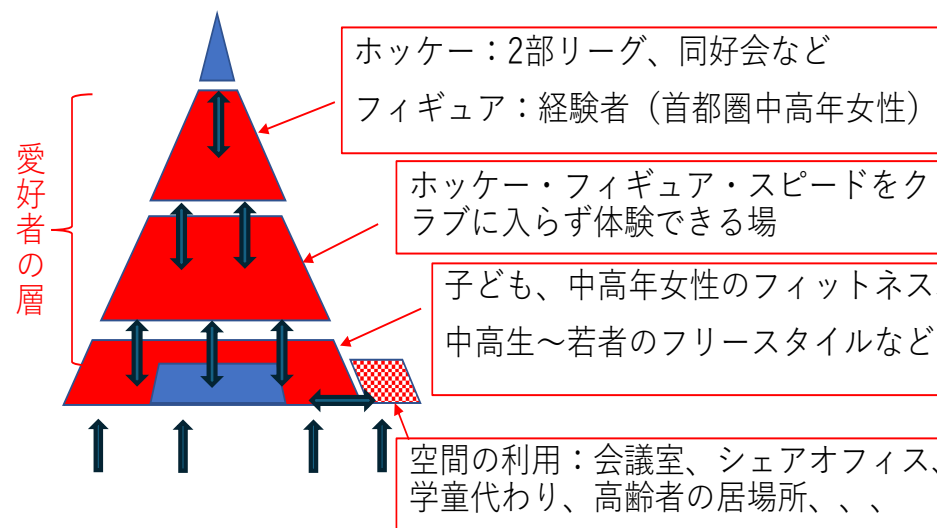
<現状>

一般滑走と競技者に分離している



<新リンク>

一般滑走の**底辺拡大**と**中間層開拓**



運転ができない小中高生の公共交通での利用や、スケートとまちなか回遊を組み合わせた中高年層の利用も開拓したい

<多様な展開の例>

- ・ 飲食や回遊など周辺商店街との協力
- ・ 一般利用者への街歩き誘導
- ・ 合宿利用者の宿泊、食事や観光
- ・ 猛暑日のクーリングシェルターとして利用など

幅広い年代の多様な利用例

西日本新聞 2017/9/3

福岡のフィギュア大会 熱く

博多区でパピオカップ 「おもてなし」人気、全国から愛好者

「大人なつフィギュア」を始めた人にも成果発表の場として、同大会が2003年に福岡市博多区のパピオアリーナで開かれた。15回目の今回は、全国から約300人のフィギュア愛好者が参加し、初回は観客も約300人だった。今年も、フィギュア愛好者の増加が著しく、観客も約300人だった。今年も、フィギュア愛好者の増加が著しく、観客も約300人だった。

クラス細分化で全員入賞 赤しゅうたんで表彰

「初めは、フィギュアを始めた人にも成果発表の場として、同大会が2003年に福岡市博多区のパピオアリーナで開かれた。15回目の今回は、全国から約300人のフィギュア愛好者が参加し、初回は観客も約300人だった。今年も、フィギュア愛好者の増加が著しく、観客も約300人だった。

83歳のスケーター



ブレイキンのように自由にスケートを楽しむ
「フリースタイルスケATING」

勝敗よりも楽しむことを求める現代の若者層に

日本経済新聞夕刊 2025/4/10

氷上の美 大人も演じたい

フィギュア教室 主婦らで盛況
少子化、裾野拡大に期待

氷上競技のフィギュアは、年齢制限がなく、大人も参加できる。主婦らで盛況のフィギュア教室が、少子化の影響で裾野が拡大している。

競技者だけでなく可能性

朝日新聞夕刊 2023/4/1

見るだけじゃない 私も舞う

フィギュアスケート始めた大人たち

羽生さん300点 自分は10点 でも楽しい！

リンク練習に与

未経験の社会人が
スケートを始めて
いる